

## 小学部

## tool 7

朝の会の司会を一人で  
できるようになるボード

## 一文字ずつゆっくりと発音する崇士

崇士は、順番の決められたことばやせりふを言うとき、教師が、平仮名を一文字ずつ指差すと、書かれている文字を見て、発音することができます。

家庭でも、宿題で、平仮名を書いて読む練習を、母親と一緒にしています。

このような姿を見せる崇士が、順番の決められたことばやせりふを、一人で言えるようになることを願いました。



## 機器のボタンやスイッチを操作する崇士

教室移動のために廊下に並ぶとき、教師が、「廊下に並びますよ。」と言うと、崇士は、いすから立ち上がり、小走りで室内灯のスイッチの所まで移動し、室内灯を消します。教室に戻ると、すぐにシューズを脱いで、先程と同様に、小走りで室内灯をつけに行きます。また、崇士は、教師が、内蔵されたLEDが点滅するゴムボールを持っているのを見ると、教師に近づき、手を出して、「く、だ、さ、い。」と言います。ボールを渡すと、崇士は、ボールの中のボタンを押して、光をつけたり、消したりして遊びます。

## 崇士らしさを活かした支援ツールを考える

崇士は、ボタンやスイッチを操作して、電気をつけたり消したりする姿をよく見せます。こうした崇士らしさを活かして、朝の会の司会を行う支援ツールに、ボタン操作によって光がついたり消えたりする仕組みを取り入れることで、自ら進んで支援ツールを扱い、一人で朝の会の司会ができるようになることを考えました。

## 用意

材料 スチレンボード、マジックテープ、スイッチで点灯できるLEDライト、数字や朝の会のことばが書かれたカード

## 作り方

- ① スチレンボードを切って、6 cm×6 cmの数字のカードと、6 cm×35 cmの朝の会の司会のことばが書かれたカードを作る。
- ② LEDライトとカードの裏にマジックテープを貼る。
- ③ 台紙となるスチレンボードに②をすべて取り付ける。

## 制作の工夫

- 朝の会の司会のことばの左側に、そのことばで行う行動の写真を貼付し、視覚的な手がかりとなるようにしました。
- すべてのことばに、LEDライトを取り付け、一つ終わるごとにボタンを押して、LEDライトを消すことができるようにしました。
- LEDライトとカードが、マジックテープで取り付けられており、必要に応じて、ことばを減らしたり、別のことばに取り替えたりできるようにしました。



ボタンを押すと光っている部分が消え、次に言うことばが一目でわかります。



マジックテープを利用することで、付け替えが自由にできるようにしました。